



平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成29年11月10日

上場会社名 株式会社アルファポリス
 コード番号 9467 URL <http://www.alphapolis.co.jp/company/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 平成29年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	1,845	40.7	205	158.0	205	159.6	131	165.7
29年3月期第2四半期	1,311	18.6	79	83.0	79	83.1	49	84.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	27.10	
29年3月期第2四半期	10.20	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	5,110	4,044	79.1
29年3月期	4,959	3,913	78.9

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 4,044百万円 29年3月期 3,913百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		0.00	0.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,800	19.3	500	187.4	500	185.7	282	179.2	58.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	4,843,700 株	29年3月期	4,843,700 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	株	29年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	4,843,700 株	29年3月期2Q	4,843,700 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）におけるわが国経済は、政府による各種経済政策等の効果により、企業収益や雇用環境の改善が続き、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、国内の個人消費の伸びは依然として力強さに欠けるほか、海外においては、米国の政策運営に関する不確実性やアジア・欧州における地政学的リスクの高まりなど、国内景気の先行きについては様々な懸念材料が内在しており、予断を許さない状況が続いております。

当社が属する出版業界におきましては、引き続き厳しい状況が続いております。出版科学研究所によると、平成29年上半年（1月から6月まで）の紙の出版物の推定販売金額は、前年同期比5.5%減となる7,281億円となりました。その内訳は、「書籍」が同2.7%減となる3,954億円、「雑誌」は同8.5%減の3,327億円となっており、「雑誌」が特に厳しい状況となっております。一方、電子出版物については、同21.5%増の1,029億円となり、堅調に成長を続けております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いものが望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。特に当社投稿サイトからの新シリーズタイトルの出版が好調なうえ、電子書籍も売上を伸ばし、出版事業の業績を牽引しました。また、当社喫緊の課題である「ジャンル拡大」に向けて、絵本専門の投稿サイト「絵本ひろば」をプレオープンしたことや、東宝株式会社と業務提携を果たしたことは、将来の成長に向けての足がかりを築くことができました。

以上の活動の結果、当第2四半期累計期間の売上高は1,845,297千円（前年同期比40.7%増）、営業利益は205,569千円（同158.0%増）、経常利益は205,797千円（同159.6%増）、四半期純利益は131,258千円（同165.7%増）となりました。

当第2四半期累計期間における各セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 出版事業

1. ライトノベル

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期とほぼ同等となる114点（前年同期比2点減）となりました。待望であったシリーズ累計420万部突破のヒットタイトル『ゲート』の新シリーズ海自編をスタートしたことに加え、『Re:Monster』や『とあるおっさんのVRMMO活動記』など、当社人気タイトルの新刊を順調に刊行することが出来ました。更に、当社投稿サイトからの新シリーズタイトルの出版が軒並み好調であり、市場の競争が激しさを増す中でも、Webの人気作を自社サイトから確実に調達、出版し、ヒットさせる体制を構築することが出来ました。また、新サービス「レンタル」を含む電子書籍販売も好調であったことから、売上高は前年同期を大きく上回る結果となりました。特に、当第2四半期会計期間における四半期ベースの売上高は、過去最高を更新いたしました。

2. 漫画

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期とほぼ同等となる25点（前年同期比1点減）となりました。ライトノベルと同様、「レンタル」を含む電子書籍販売が好調であったことに加え、前年同期で発生していた『ゲート』関連書籍のような一時的な返本増は、当第2四半期累計期間では発生していないことから、売上高は前年同期を上回る結果となりました。

また、将来において書籍刊行の元となるWeb連載漫画については、当第2四半期累計期間では、新たに24本の新規連載を開始（前年同期比10点増）いたしました。特に、当社漫画投稿サイトの認知度・知名度向上により、当該新規連載には、当社投稿サイトから編集部がスカウトいたしました8名の漫画家による、8本の完全オリジナル漫画が含まれていることが特長的であり、かつ、将来の成長に繋がる成果であると考えております。

3. 文庫

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期をやや上回る62点（前年同期比2点増）となりました。加えて、文庫においても漫画と同様、前年同期に発生していた『ゲート』関連書籍のような一時的な返本増は、当第2四半期累計期間では発生していないことから、売上高は前年同期を上回る結果となりました。しかしながら、刊行点数及び1タイトル当たりの発行部数が徐々に低下する傾向がみられることから、商品開発力や販売力の強化などの施策についての検討も行っております。

4. その他

当第2四半期累計期間では、「絵本・児童書大賞」に応募された文字のみのストーリーであったものに、人気イラストレーターの絵を付けることで絵本『わたしのげぼく』が誕生。本書籍は、本書提出日現在、4刷・1.6万部を突破する好調な結果となり、現在、注力している絵本投稿サイト「絵本ひろば」の将来性が期待できる結果を残すことができました。

一方で、「ビジネス」ジャンルの強化が予定通り進んでおらず、また、当社主力タイトル『居酒屋ぼったくり』については、当タイトルのTVドラマ化決定の告知と平仄を合わせる為、あえて第3四半期会計期間に刊行を延期したことから、売上高につきましては、前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における出版事業の売上高は1,626,552千円（前年同期比41.4%増）、セグメント利益は542,574千円（同85.5%増）となり、収益性は大幅に回復いたしました。

② ゲーム事業

1. スマホアプリ

『リ・モンスター (Re:Monster) 』につきましては、平成29年5月に実施した「ゴブリンフェスティバル」が好評となり、売上高は、単月では過去最高の売上高を更新する一方で、当該イベントの反動により、その後の売上高はやや低下する結果となりました。

『THE NEW GATE』につきましては、様々な新規コンテンツの投入やイベントの開催を行うことで、リリース直後の売上と比べると厳しい状況とはなりますが、比較的安定した売上で推移する結果となりました。

平成29年4月にリリースした『異世界でカフェを開店しました。』につきましては、リリース直後から厳しい結果となり、運用体制の一新を図るものの売上回復には直結せず、引き続き厳しい状況が続く結果となりました。

2. PCブラウザゲーム

『ワンモア・フリーライフ・オンライン』につきましては、平成29年4月に実施した「1周年記念イベント」によるユーザー回帰が進んだことに加え、チャネリング・サービス（他社ゲームプラットフォームでも、本ゲームをプレイすることができるようになるサービス）の提供先を拡大したことに伴い、売上高は徐々に改善いたしました。

一方、平成29年4月にリリースした『月が導く異世界道中』につきましては、様々な施策を講ずるものの、ユーザー獲得が想定通り進まず、売上高は厳しい結果となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間におけるゲーム事業の売上高は218,744千円（前年同期比36.0%増）、セグメント損失は132,040千円（前年同期は44,412千円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末と比較して187,014千円増加し、4,857,107千円となりました。これは主に、売掛金の回収に伴い売掛金が減少（前事業年度末比80,588千円減）し、また、未収還付法人税等の還付に伴い、その他に含まれる未収還付法人税等が減少（同36,125千円減）する一方で、出版事業を中心に売上が好調であったことに伴い現金及び預金が大きく増加（同306,911千円増）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末と比較して36,064千円減少し、253,645千円となりました。これは主に、無形固定資産の減少（同38,244千円減）によるものであり、その主な要因はスマホアプリ等に係るソフトウェア制作費を償却したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ34,182千円増加し、1,027,289千円となりました。これは主に、返品率の改善に伴い返品調整引当金が減少（前事業年度末比42,471千円減）する一方で、出版事業売上高が堅調に推移したことに伴い未払法人税等が増加（同74,087千円増）したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ14,491千円減少し、38,737千円となりました。これは主に、借入金の返済に伴い長期借入金が増減（同19,213千円減）したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ131,258千円増加し、4,044,725千円となりました。これは全て、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における、現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ306,911千円増加し、2,784,945千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは342,334千円の収入（前年同期は55,120千円の収入）となりました。主な増加要因は、税引前四半期純利益の計上、減価償却費、売上債権の減少、及び法人税等の還付によるものであります。また、主な減少要因は、返品調整引当金の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは14,670千円の支出（前年同期は80,255千円の支出）となりました。これは主に「絵本」ジャンルの強化に向けて絵本投稿サイト「絵本ひろば」を制作したことに伴い無形固定資産の取得による支出が発生したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは20,752千円の支出（前年同期は25,986千円の支出）となりました。これは主に、長期借入金の返済によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年5月12日に公表いたしました数値を修正しております。

詳細につきましては、本日（平成29年11月10日）公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,478,034	2,784,945
売掛金	1,854,750	1,774,161
製品	155,663	143,475
仕掛品	68,237	85,414
その他	113,407	69,110
流動資産合計	4,670,093	4,857,107
固定資産		
有形固定資産	9,409	14,300
無形固定資産	115,783	77,538
投資その他の資産	164,517	161,806
固定資産合計	289,710	253,645
資産合計	4,959,803	5,110,752
負債の部		
流動負債		
買掛金	77,960	62,554
1年内返済予定の長期借入金	42,732	41,919
未払金	381,375	375,911
未払法人税等	-	74,087
賞与引当金	23,629	31,184
返品調整引当金	436,579	394,108
その他	30,830	47,523
流動負債合計	993,107	1,027,289
固定負債		
長期借入金	53,229	34,016
その他	-	4,721
固定負債合計	53,229	38,737
負債合計	1,046,336	1,066,026
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	2,195,818	2,327,076
株主資本合計	3,913,467	4,044,725
純資産合計	3,913,467	4,044,725
負債純資産合計	4,959,803	5,110,752

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	1,311,518	1,845,297
売上原価	615,346	679,587
売上総利益	696,172	1,165,709
返品調整引当金戻入額	491,730	436,579
返品調整引当金繰入額	412,901	394,108
差引売上総利益	775,001	1,208,180
販売費及び一般管理費	695,311	1,002,611
営業利益	79,690	205,569
営業外収益		
受取利息	22	11
その他	-	465
営業外収益合計	22	476
営業外費用		
支払利息	440	248
営業外費用合計	440	248
経常利益	79,272	205,797
税引前四半期純利益	79,272	205,797
法人税等	29,869	74,539
四半期純利益	49,402	131,258

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	79,272	205,797
減価償却費	48,613	56,512
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,857	7,555
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△78,829	△42,471
受取利息及び受取配当金	△22	△11
支払利息	440	248
売上債権の増減額 (△は増加)	374,880	80,588
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△10,481	△4,988
仕入債務の増減額 (△は減少)	△23,825	△15,405
未払金の増減額 (△は減少)	△60,505	△4,851
その他	△25,973	23,923
小計	305,426	306,898
利息及び配当金の受取額	22	11
利息の支払額	△440	△248
法人税等の支払額	△249,888	△452
法人税等の還付額	-	36,125
営業活動によるキャッシュ・フロー	55,120	342,334
投資活動によるキャッシュ・フロー		
無形固定資産の取得による支出	△100,949	△16,773
出資金の回収による収入	20,694	2,103
投資活動によるキャッシュ・フロー	△80,255	△14,670
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△25,986	△20,026
ファイナンス・リース債務の返済による支出	-	△726
財務活動によるキャッシュ・フロー	△25,986	△20,752
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△51,121	306,911
現金及び現金同等物の期首残高	2,572,464	2,478,034
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,521,343	2,784,945

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	出版事業	ゲーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,150,704	160,814	1,311,518	—	1,311,518
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,150,704	160,814	1,311,518	—	1,311,518
セグメント利益又は損失(△)	292,439	△44,412	248,026	△168,336	79,690

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△168,336千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	出版事業	ゲーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,626,552	218,744	1,845,297	—	1,845,297
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,626,552	218,744	1,845,297	—	1,845,297
セグメント利益又は損失(△)	542,574	△132,040	410,533	△204,964	205,569

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△204,964千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。